

歯科口腔外科の最新機材

清宮 弘康 中島 健

歯科口腔外科は、一般歯科では困難な抜歯や全身麻酔、入院加療が必要な口腔腫瘍、口腔領域の感染症、顎骨骨折などの口腔外科疾患を中心に診療を行っています。

今回は、本年より当科に導入しました口腔内蛍光観察装置 VELscope®Vx (ベルスコープ)を用いた診査、手術への応用についてご紹介させていただきます。VELscope®は、1990年代半ばより肺、子宮頸管部、口腔内の蛍光観察の実用化を目的に研究開発がスタートし、2006年北米で初めて市場導入されました。主に、口腔粘膜の異常、前癌病変及び口腔がんを発見する手段の一つとして海外で多く利用されています。当科では、通常の外來診療において、前癌病変、悪性病變の变化、範囲を評価するために使用しています。また手術に際しては、舌、頬粘膜などの粘膜病變の切除範囲を決定する際に、参考にしています。さらには、いままで手術範囲の決定に苦慮していた顎骨骨髓炎の治療に応用しています。顎骨骨髓炎において、抗菌薬治療に不応なケースは、手術療法を選択されることが多いのですが、骨髓炎の特徴として疾患の範囲がはっきりせず、手術を行っても、再発するケースなどがあり、難治性の経過をたどるケースが少なくありません。しかし、近年、骨蛍光標識に使用されるテトラサイクリン系の抗菌薬であるミノマイシンの性質を利用し、骨髓炎の手術に利用する報告が見られ始めました。ミノマイシンを1ヵ月以上内服した状態で、手術に臨み、手術部位を VELscope®Vx で確認しながら、リアルタイムで切除・搔爬範囲を決定することができます。当科でも最近増加してきた薬剤関連顎骨壊死 (MRONJ) における全身麻酔下の手術において、実際に術者が VELscope®Vx を通して、切除搔爬範囲を決定し、手術をしています。術者の経験値、臨床の勘に頼っていた手術が、客観的かつリアルタイムに行うことができるようになりました。まだ症例数も少なく、今後も引き続き検討が必要ではありますが、非常に有益なツールであると考えています。

症例: DE8F-0F44-0A85-DFA6-VEL

日付: 6月-26-2017

部位:

色:

表面の質感:

軟度:

蛍光:

光: 白色光



下顎骨髓炎口腔内写真

症例: DE8F-0F44-0A85-DFA6-VEL

日付: 6月-26-2017

部位:

色:

表面の質感:

軟度:

蛍光:

光: VELscope



VELscopeRVx 像 搔爬前 ※黒い部分が骨髓炎

症例: DE8F-0F44-0A85-DFA6-VEL

日付: 6月-26-2017

部位:

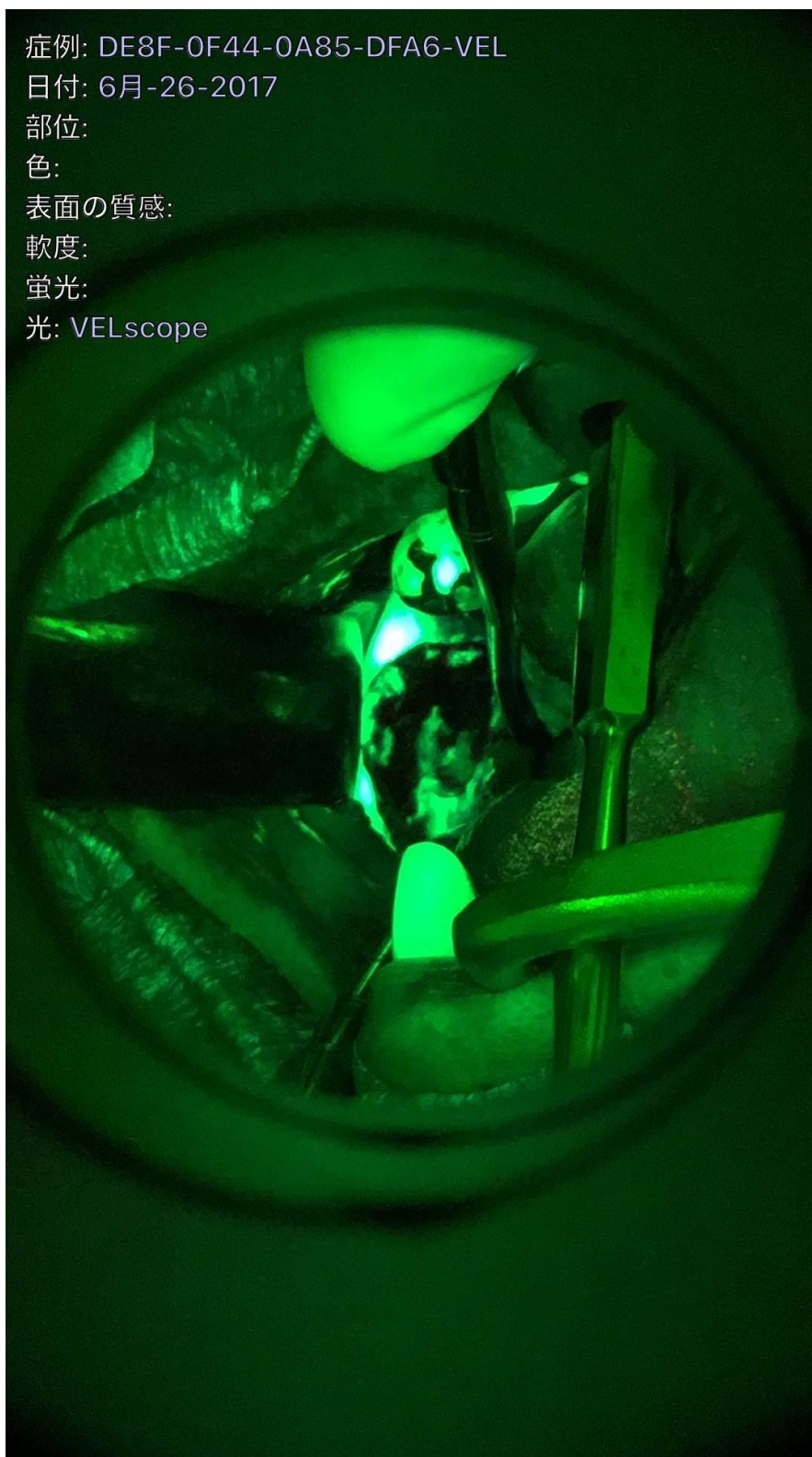
色:

表面の質感:

軟度:

蛍光:

光: VELscope



VELscopeR Vx 像 白く発色するまで搔爬